

会 議 録

■会議名	第4回 倉敷市社会福祉審議会障がい者基本計画及び障がい福祉計画策定専門分科会
■日時	令和6年1月18日(木) 15:30~16:30
■場所	倉敷市役所本庁舎5階 第502会議室
■出席者	生水副専門分科会長、安藤委員、井桁委員、上村委員、友國委員、平松委員、藤原委員、古谷委員、眞神委員、松井委員、藪田委員 藤原保健福祉局長、小野社会福祉部長、清水社会福祉部次長 山田障がい福祉課長、丸田障がい福祉課長補佐、舟戸室長、小野主幹、藤原主任 村岡((株)公益創造センター)
■欠席者	後藤専門分科会長、安原委員、山田委員
■傍聴者	なし
■進行	1 開会 2 議事 (1)倉敷市障がい者基本計画及び障がい福祉計画(素案)について (2)その他 3 閉会
■内容	2 議事 (1)倉敷市障がい者基本計画及び障がい福祉計画(素案)について ○事務局説明(パブリックコメントの実施結果について) ○質疑 生水副会長 ご意見がございましたら発言をお願いします。 藤原委員 学校と福祉の連携の意見は、小中学校の意見だと思う。高校卒業時の移行期に連携ができていない。福祉サービス事業者に声がかからない。縦割りになっている。教育と福祉の連携が必要。 事務局 おっしゃるとおり。以前からの課題。高校卒業から一般までの移行がまだまだ。高校は県の教育委員会になるのでハードルが高いが頑張りたい。 平松委員 障害の「害」の字について、市長が「害を与えない」と言われた。ひらがなに直していただいてありがとうございます。パブコメの意見はどなたからいただいたのか。知的障がいの子どもの健全育成と親たちの悩み。親が高齢になったときに子どもは行くところがない。そんな意見はなかったか。 事務局 61件の内訳、意思疎通支援が20件ぐらい。医療的ケア、重症心身障がい児者などへの支援の充実が13件。全般的な意見が数件。バリアフリー化、障がい者理解など数件ずつ。高齢福祉の計画も同時進行で策定している。団体からの意見聴取も計画にしっかり反映させる。 平松委員 知的障がいに関わる職員、知的でも自分で意思を言える人もいる。本人たちの言葉も聞いてほしい。どこも指導員が不足。その点もお願いします

	<p>す。</p> <p>藤原委員 14 番の「強度行動障がいの方はサービスが限られている」、21 番の「利用者側に選択肢がない」、32 番の「事業所が少ない」など、福祉サービスの数が足りていないわけではなく、職員がいないからとか障がい特性を理由に断っている。予算をかけても運営する側が、何のために仕事するのかというところが大切。単価がこうだから、ではなく子どものことを考える職員が増えるかどうか。人材育成が重要。利用者をお金でみる職員ではだめ。</p> <p>事務局 医療的ケア児等は、市では取り組んでいきますという方向。福祉人材の育成については、地域生活支援拠点の中の機能強化で取り組んでいる。</p> <p>生水副会長 ご意見無いようですので次の議題に。その他について。</p>
	<p>(2) その他</p> <p>○事務局説明</p> <p>○質疑</p> <p>井桁委員 医療的ケア児等は地域生活支援拠点でということだが、実際、(相談に)行くところがない人には、「地域生活支援拠点に行けばいい」と言えばよいのか。</p> <p>事務局 拠点だけでなく、福祉サービス全般としてどの分野でも関連する。</p> <p>井桁委員 相談先が無いという声を聞く。</p> <p>事務局 地域活動支援センター I 型、子どもなら「ゆめばる」。周知が足りていないかもしれない。</p> <p>平松委員 入院したときに付き添いを頼むが、ダスキンだと 2 万円かかる。知的は親亡き後の入院が心配。倉敷にも旭川荘のようなものを作れと言った。親がいても高齢で看病できない。一番の問題。ご検討よろしくお願いたします。</p> <p>事務局 貴重なご意見として今後の取り組みに生かします。</p> <p>生水副会長 これを持ちまして本日の会議を終了します。</p>

会議録の内容に相違ないことを確認し、ここに署名します。

倉敷市社会福祉審議会障がい者基本計画及び障がい福祉計画策定分科会

副専門分科会長 生水洋次